サラサリンガの被害（第２報）

○はじめに

2011 年から、中通り地方を中心にコナラなどの葉がほとんど食べ尽くされてしまう食害被害が確認さるようになりました（写真-1）。食害被害は、サラサリンガ（写真-2,3）の大量発生によるものでした。

サラサリンガは、幼虫がクヌギ、ナラ類、カシ類を加害するとされており[1,2]、福島県内では、被害の大きかった順にコナラ、クヌギ、ミズナラに食害被害が発生していました。

写真-1　被害地 2011 年６月 10 日　田村市

写真-2　サラサリンガの成虫

写真-3　サラサリンガの幼虫

○大量発生地域

2011 年は、7 市町村（その他 2 市村からも被害情報がありましたが未確認となってしまいました。）、2012 年は、12 市町村で被害が確認されるなど、非常に広い地域で、ほぼ同時期にサラサリンガが大量発生しました（表-1）。

表-1　サラサリンガの大量発生を確認した市町村

年	市町村数	市町村名
2011	7（9）	二本松市（西部）、大玉村、郡山市、田村市、三春町、白河市、棚倉町 （被害未確認市村（地域）：伊達市、二本松市（東部）、葛尾村）
2012	12	福島市、伊達市、二本松市、本宮市、大玉村、郡山市、須賀川市、三春町、田村市、浪江町、飯館村、葛尾村

○大量発生は終息した？

2013 年に過去に被害が確認された地域を中心に調査を行いました。しかし、2012 年まで、大量にいたサラサリンガの幼虫が確認できませんでした。

マイマイガ[4]や今年、裏磐梯地域で被害が確認されたブナアオシャチホコ[5]は、しばしば大量発生することが知られています。これら、蛾の仲間のようにサラサリンガは大量発生を繰り返すのでしょうか？

県内の森林で過去にサラサリンガが大量発生した事例が少ないため、この疑問に回答するには、非常に困難です。今後も経過を観察し、事例を積み重ねてゆくことが非常に重要となります。

サラサリンガ（西尾,2011 など）
６月下旬に成虫が羽化、７月上旬に産卵、８月上旬に幼虫が孵化し、幼虫で越冬する。
　幼虫は、日中に袋状の巣のようなものの中で（以下、「巣」という）群集する。巣は、孵化直後から越冬前までの秋季は、卵を覆っていた鱗片の下部に作り、越冬後から蛹になる６月上旬までは、樹木の幹や太い枝の部分に巣を作る。幼虫は、この巣を出入りして加害を繰り返す。

（引用文献）

1 服部伊楚子：原色日本蛾類幼虫図鑑（上）,一色周知・六浦晃・山本義丸・服部伊楚子,(株)保育者,p58-59（1965）

2 上住泰・西村十郎：原色庭木・花木の病害虫、（社）農山村文化協会,p113-114（1992）

3 西尾規孝：サラサリンガの生活史,やどりが 228,p40-49（2011）

4 古田公人:森林昆虫総論・各論,小林富士夫・竹谷明彦,(株)養賢堂,p279-282（1994）

5 鎌田直人:ブナの食葉性昆虫ブナアオシャチホコの密度変動,日本生態学会誌 56,p106-119（2006）

（担当：森林保全課、県中、ほか各農林事務所保護担当者、林業研究センター）
（文：福島県林業研センター　蛭田利秀）

平成 25 年 10 月 1 日